



TITLE:

# Temporal Migration and Community Development in Rural Indonesia( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

Gunawan, Prayitno

---

CITATION:

Gunawan, Prayitno. Temporal Migration and Community Development in Rural Indonesia. 京都大学, 2015, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2015-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k18968>

RIGHT:

|   |  |    |                  |
|---|--|----|------------------|
| 京都大学  | 博士（工学）   | 氏名 | GUNAWAN PRAYITNO |
| 論文題目  | Temporal Migration and Community Development in Rural Indonesia<br>(インドネシア地方部における出稼ぎ労働とコミュニティ開発に関する研究) |    |                  |
| (論文内容の要旨)   |  |    |                  |
| <p>本論文は、グローバリゼーションの進展に伴いインドネシア地方部において増加している出稼ぎ労働者がコミュニティ開発にもたらす影響を評価するために、出稼ぎ労働と農村コミュニティの持続可能性やソーシャルキャピタル水準に関する現地調査を通じてその実態を把握している。さらに、ソーシャルキャピタル水準が出稼ぎ労働者の意思決定に及ぼす影響を評価する世代間重複モデルを構築して理論的知見を得るとともに、実態調査から獲得した情報を用いて共分散構造分析を実施して、得られた理論的知見を実証的に検証したものであり、以下の7つの章で構成されている。</p> <p>第1章は序論であり、出稼ぎ労働者とコミュニティ開発に関する基本的な考え方を整理している。経済成長の途中段階にあるインドネシアをはじめとした発展途上国において、今後の経済成長と地方コミュニティの持続可能性との両方を考慮した開発政策を提示することの重要性について言及している。さらに、地方部におけるソーシャルキャピタル水準と出稼ぎ労働者の意思決定行動との関係性を評価する理論的・実証的枠組を整理すると共に、本論文への摘要可能性についてとりまとめている。そして、本論文が対象とする研究範囲と研究目的とを明確にした上で、第2章以降の論文構成について説明している。</p> <p>第2章では、ソーシャルキャピタル水準と地方部におけるコミュニティ開発，ならびに出稼ぎ労働者の意思決定行動に関する研究の，包括的なレビューを行っている。まずソーシャルキャピタル概念に関するこれまでの研究蓄積を体系的にとりまとめると共に，出稼ぎ労働者を中心とした移民に関する意思決定とソーシャルキャピタル水準との関係に関する研究結果から得られた知見をとりまとめ，本研究でとりあげるべき理論的仮説を提示している。さらに，観測可能なコミュニティ活動に関する参加実態から，直接観測することが出来ないソーシャルキャピタル水準を推計する方法論について整理し，本論文の持つ意義を明確にしている。</p> <p>第3章では，インドネシア地方部の自治体を対象とした，出稼ぎ労働者の行動とコミュニティ内の人的ネットワークに関するフィールド調査の結果についてとりまとめている。世帯における出稼ぎ労働者の現状や他の世帯構成員の生活状況について体系的に調査すると共に，個人・家計属性と出稼ぎ労働に関する意思決定との関係について分析している。さらに，コミュニティ内の人的ネットワーク構造を明らかにするために，コミュニティ開発に対して重要な役割を果たす共同活動への参加状況や日常的なコミュニケーションの現状について整理し，コミュニティ内における人的ネットワークの強さを計測する指標を構築するための基礎的な情報についてとりまとめている。</p> |  |    |                  |

|  |        |    |                  |
|--|--------|----|------------------|
| 京都大学   | 博士（工学） | 氏名 | GUNAWAN PRAYITNO |
| <p>第4章では、地方部コミュニティにおける出稼ぎ労働者の送り出し行動に関する世帯の意思決定行動と、コミュニティにおけるソーシャルキャピタル水準との関係进行分析する理論モデルを構築している。ソーシャルキャピタルの持つ公共財としての特性と人的資本の私的財としての特性を明示的に考慮した、世帯間重複世帯モデルを構築し、より強い人的ネットワークの形成がソーシャルキャピタル水準を高め、出稼ぎ労働者数を削減させる方向に寄与することを、理論的に示している。このことは、自律する地方部コミュニティを育成するためには人的資本投資とソーシャルキャピタル形成の両方が必要であることを示唆しており、出稼ぎ労働者の多い農村地域開発に関する有益な提言を行っている。</p> <p>第5章では、前章で得られた理論的知見を実証的に検証するために、実態調査の結果を用いて共分散構造分析をおこなっている。第3章で示した実態調査の結果から、コミュニティ共同活動に対する参加状況と世帯属性との間には有意な相関があることを指摘した。共分散構造分析の結果から、その両者の関係を説明する観測不可能な内生変数として「コミュニティに対する意識」「居住地に対する意識」「隣人に対する思いやり」の3つが抽出できることを指摘している。その上で、ソーシャルキャピタル水準が高いコミュニティにおいては、コミュニティを構成する人員が減っても地域のつながりを維持できるため、より長期間移民労働者を送り出す傾向にあることを実証的に示している。</p> <p>第6章では、前章で行った分析枠組を拡張し、ソーシャルキャピタル水準と世帯が出稼ぎ労働者を送り出すかどうかに関する意思決定との関係を実証的に示すモデルを構築している。これまでの分析結果から、ソーシャルキャピタル水準の高いコミュニティでは、比較的収入の低い世帯であってもお互いのつながりが強いために出稼ぎ労働者を送り出しにくい構造にあるのか、もしくは、出稼ぎ労働者がコミュニティにおいて果たしてきた役割を他の構成員でカバーできるために出稼ぎ労働者を送り出しやすい構造にあるのか、という、2つの相反する仮説をたてている。実態調査結果を用いた分析結果から、後者の仮説がよりもっともらしいことを統計的に示している。その結果を用いて、ソーシャルキャピタル育成や出稼ぎ労働者政策に関して有益な示唆を提示している。</p> <p>第7章は結論であり、本論文で得られた成果について要約している。</p> |        |    |                  |

## (論文審査の結果の要旨)

本論文は、インドネシアの地方部を対象とした出稼ぎ労働者がコミュニティ開発にもたらす影響を評価するために、出稼ぎ労働と農村コミュニティの持続可能性やソーシャルキャピタル水準との関係を分析したものであり、具体的には、以下のような知見を得ている。

1. インドネシア地方都市における出稼ぎ労働移民に関するアンケート調査及びインタビュー調査を実施し、その実態を明らかにしている。地域コミュニティにおける人的ネットワークの形成メカニズムに着目して出稼ぎ労働に関する意思決定行動との関連を明らかにするとともに、モデル分析を実施するための基礎的情報を提供している。
2. 世代重複モデルを用いて潜在的出稼ぎ労働者の人的資本・社会的資本への投資と出稼ぎ意思決定行動との関係を理論的に分析し、地域コミュニティにおける社会的資本形成と出稼ぎ労働者数との関係を明らかにしている。分析の結果、地域コミュニティにおける人的ネットワークのつながりの強さが十分に強ければ出稼ぎ労働者数が減少する可能性があることを示している。
3. コミュニティや個人の属性がソーシャルキャピタルの形成を通じて地域の集合活動への参加行動や出稼ぎ行動に及ぼす影響を、共分散構造分析により定量的に明らかにしている。地域への愛着、居住する地域コミュニティとのつながりという二つの潜在的要因が、各種活動への参加以降に関する意思決定に大きく影響していることを実証的に示している。

本論文はインドネシアの地方部におけるソーシャルキャピタル形成と出稼ぎ労働移民の実態を明らかにするとともに、コミュニティにおける人的ネットワークの強さと出稼ぎ労働に関する意思決定が農村地域の発展に及ぼす影響について分析したものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成27年2月24日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。